

**【第1段階】**  
 文系大学から文理融合型  
 大学への転換

**【第2段階】**  
 創造と変革を先導する文  
 理融合型大学への進展

学長のリーダーシップの下、学長裁量経費の活用、教員組織の再配分を含めた全学的な取組により、教育学部・経済学部の2学部のみで構成される文系大学から文理融合型大学へ転換。日本初のデータサイエンス学部・研究科を設置し、データサイエンス教育研究拠点を形成。

・文理融合型大学モデルケースとして、各専門分野でデータサイエンス社会実装に係る教育（PBL教育、STEAM教育）を展開・産学公連携を推進し、産公でのデータサイエンスのエキスパート人材を育成。  
 →データサイエンスを駆使し価値創出できる人材を養成し、新たな社会の活力につなげる

**【経営改革構想KPI】**

- ・ DS研究科（博士課程） R3年度収容定員6名
- ・ DS研究科（博士課程） R3年度収容定員55名
- ・ 教職大学院R3年度収容定員55名

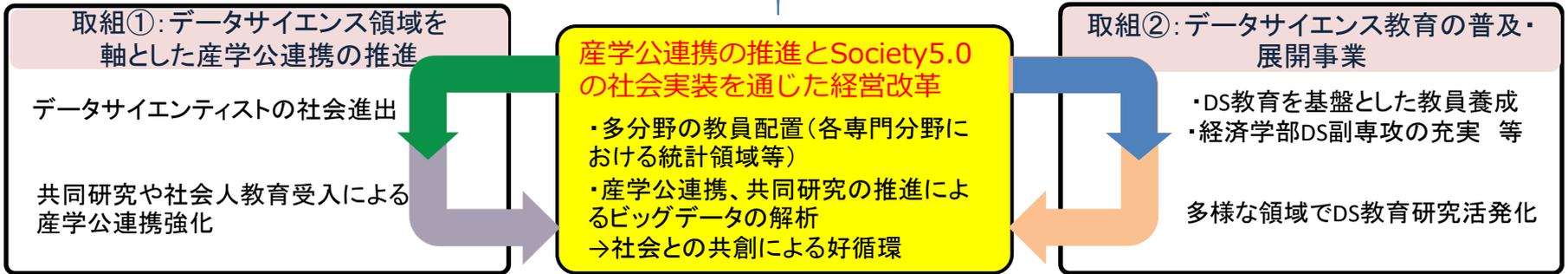
獲得資金や人的・物的リソースの戦略的配分

学内資源再配分

国立大学改革強化推進補助金

学長裁量経費

外部資金  
 間接経費



➔ 教育研究組織改革の社会的インパクトの創出 及び、外部資金獲得体制の整備による経営基盤強化

社会実装や新たな価値創出

・研究成果の社会実装や企業等の社会人教育への活用

【KPI:連携企業数215件  
 /R3年末現在219件】

データサイエンス教育の普及・展開

・文理融合型大学モデルケースとしてデータサイエンス社会実装に係るPBL教育やSTEAM教育の実施  
 ・全国規模でオンライン講義を展開。

【KPI:インターネット講座R1-3累計受講者数24千名  
 /R3年末現在58千名】

新たな経営基盤の確立

・社会との共創による好循環による外部資金の獲得

【KPI:共同研究等間接経費獲得額36百万円  
 /R3年末現在63百万円】

## 経営改革構想に対するリソースの集中

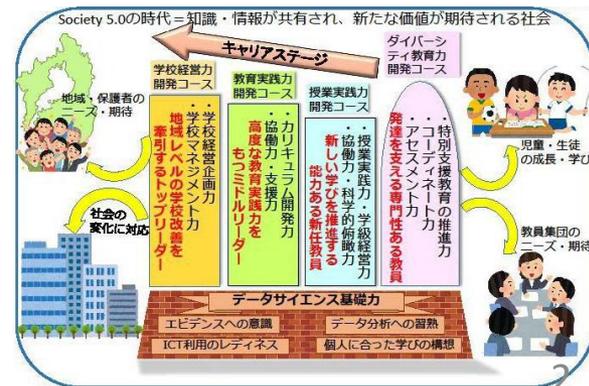
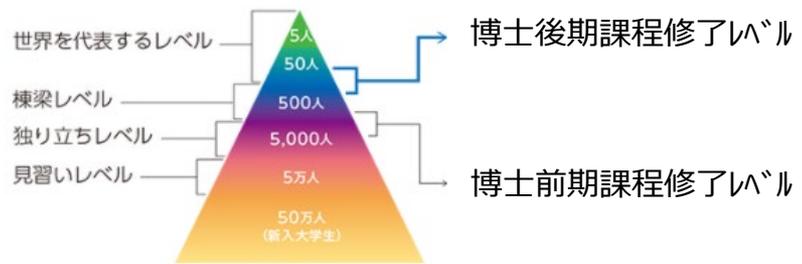
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
・ 学長裁量経費等において、補助金と連動した経営改革事業への配分			
・ 外部資金等を活用したデータサイエンス領域の教員配置	学長裁量経費 34百万円	27百万円	31百万円
	目的積立金 45百万円	57百万円	118百万円
・ スペースマネジメントによるデータサイエンス領域の共同研究スペースの確保	DS領域専任教員体制 35人	38人	46人
	学内共同研究拠点 3拠点	4拠点	5拠点

## society5.0時代のデータサイエンティスト養成に向けた教育体制を展開

・ 令和2年4月データサイエンス研究科博士後期課程を1年前倒して設置し、学部卒から博士前期課程の独り立ちレベル、博士後期課程の棟梁レベルまで全ての階層に応じたデータサイエンス教育研究拠点として体制整備

・ 令和2年4月から、教育学部において「教育データサイエンティスト」養成プログラムを実施。

・ 大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）において、データサイエンスリテラシーを備えたプロフェSSIONAL教師の育成のため、教職大学院全学生のデータサイエンス基礎能力の修得を目指す科目「学校教育におけるデータサイエンス」の新設（令和3年度）を決定。



## 教育研究組織改革の社会的インパクトの創出

- データサイエンス学部第1,2期生の進路（就職進学率95.7%）  
 : 情報通信・ITの他、DXに取り組む製造業、金融等、幅広い分野の人材ニーズに対応。  
 第1期生が地域データコンサルタントを起業、大学周辺でのスタートアップによる地方創生に貢献
- データサイエンス研究科博士前期課程での社会人受入推進（派遣社会人/入学者数：R3\_14/43、R4\_17/46と高水準で推移）
- データサイエンス領域と他分野領域の学内分野横断的研究プロジェクトを発足  
 →新学習指導要領でのMOOC教材・カリキュラム開発（教育学部・DS学部での共同開発）・STEAM教育研究ユニットの組成
- 全国規模でMOOC講義を展開（「大学生のためのデータサイエンス」等4講座を開講、数理・DS教育強化拠点コンソーシアムの提言する数理・DS・AIモデルカリキュラムへも改訂により対応）
- 高大連携事業：県内県立高等学校のほか、データサイエンス分野でSSH事業実施校として指定を受ける兵庫県立姫路西高等学校や島根県立松江南高等学校、香川県立観音寺第一高等学校、武庫川女子大学附属高等学校等との連携協力協定締結。MOOC講義「高校生のためのデータサイエンス入門」によるDS教育支援

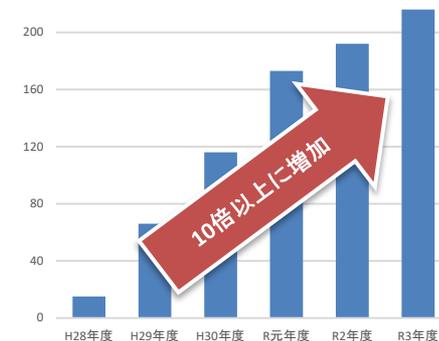


**【KPI③：インターネット講座R1-R3年度累計受講者数を24千人】** 【単位：人】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
<b>KPI</b>	7,000	15,000	24,000
<b>実績値</b>	12,399	37,184	57,675

## 外部資金獲得体制の整備による経営基盤強化

- ・獲得した外部資金を活用し、プロジェクトを遂行するための教員を採用。共同研究・連携協定を積極的に推進。
- ・企業等と共同設置するセンターのため共同研究スペースを増設→ビッグデータ専門研究拠点を5拠点設置（JSSRC（保険企業と連携）、DEMLセンター（調査サービス企業と連携）、近江テック・アカデミー（地方創生テレワーク事業）等）共同研究やPBL演習教材の開発等を推進。
- ・共同研究等獲得による経営基盤の強化
  - ・寄附金獲得額 … **H28～R3年度で累計約9.7億円**
  - ・共同研究等（直接・間接含む）のR3受入  
 … **H28年度比10倍以上に増加**



### 【KPI①:連携企業数R3年度に215件】

【単位：件】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
K P I	104	115	215
実績値	151	177	219

### KPI②:共同研究等間接経費獲得額をR3年度に36百万円】

【単位：千円】

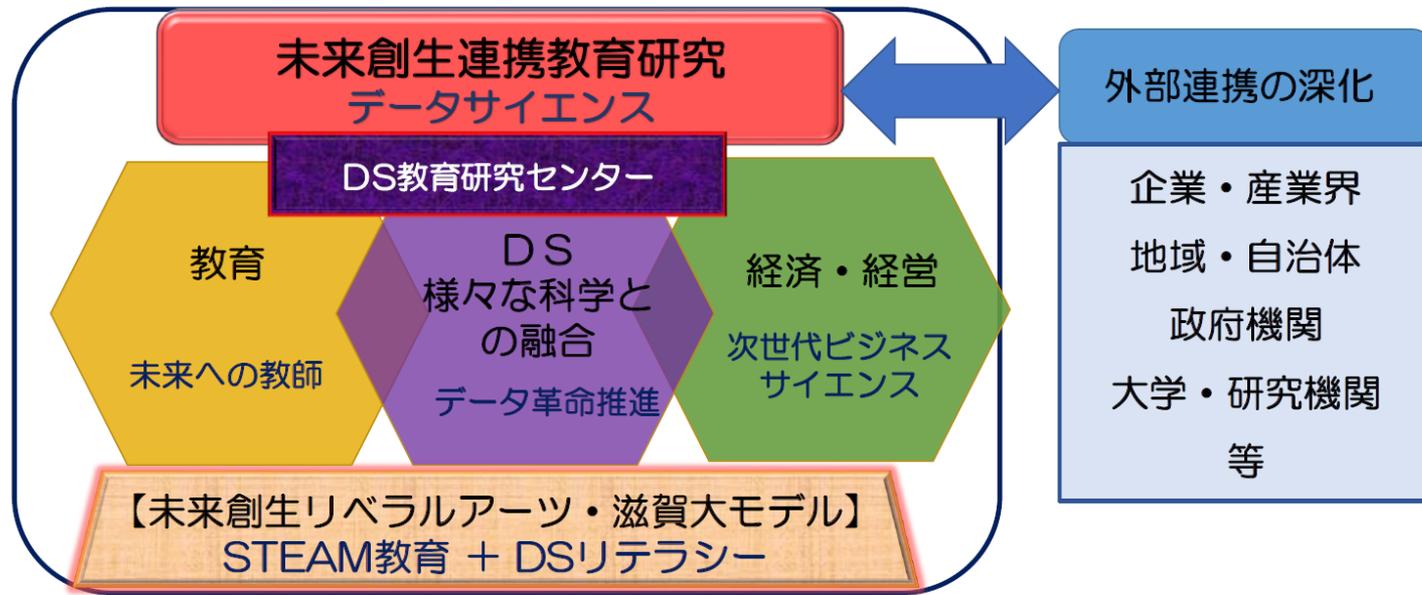
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
K P I	25,000	35,000	36,000
実績値	31,556	14,558	62,506

## 第4中期目標期間への進展：未来創生「滋賀大学」構想

### 未来創生「滋賀大学」構想



地域と日本の未来を切り拓く＝データサイエンス&STEAMで貢献



「数理・DS・AI教育の促進」  
全学部でのDS能力有する人材育成



「未来創生リベラルアーツ・滋賀大モデル」  
STEAM教育、DSリテラシーの涵養

Society5.0の時代に、論理的な思考力、洞察力、判断力を備えた人材が、  
社会の課題の発見・解決し、未来社会を創生する